

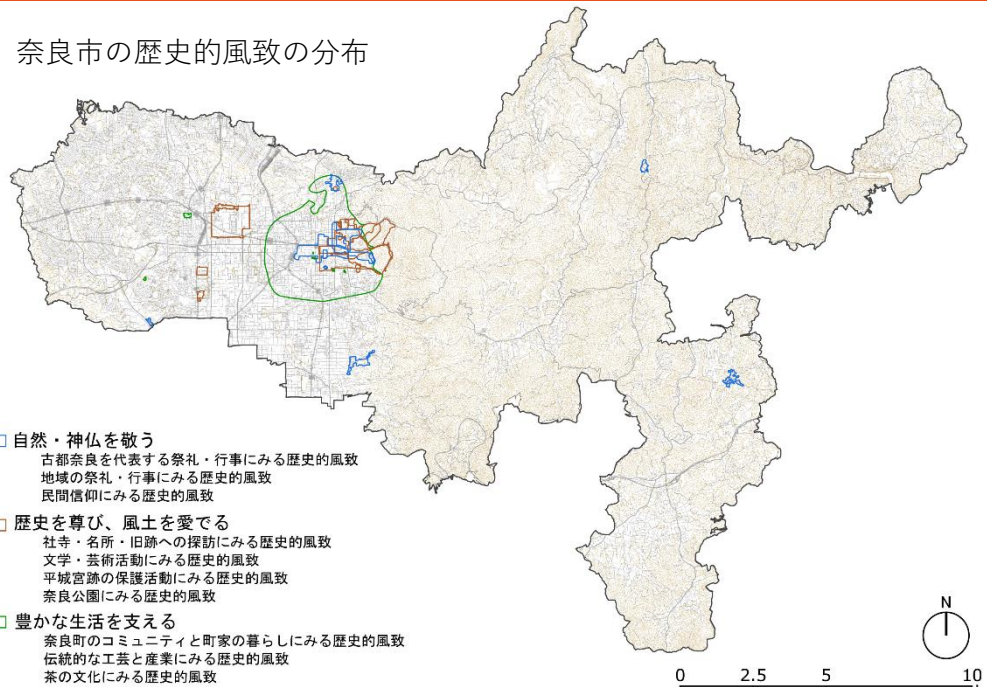
和銅3年(710)の平城遷都により、現在の奈良市に古代日本の都、平城京が置かれた。古代の平城京や大社寺がつくりだした「都」の空間は、その後の都市形成の基盤となり、歴史的建造物と自然環境とが一体となった歴史的風土を形成するとともに、各時代の特徴を反映した多様な活動の展開を促し、それらが折り重なる重層的な「歴史的風致」をつくりだしてきた。

また、奈良市の歴史的風致は、かつての都としての「中心性」を反映した歴史的風致と、各地域の多様な特徴を反映した「地域性」のある歴史的風致という二面性をもっており、そのことにより、一層魅力的なものとなっている。

したがって、奈良市全体としての歴史的風致は、「古都奈良の歴史的風土を舞台として、それぞれの時代や地域において育み、成熟させてきた、風格と魅力のある歴史的風致」であるといえる。

奈良市歴史的風致維持向上計画では、このような奈良市の特性を鑑み、「自然・神仏を敬う」「歴史を尊び、風土を愛でる」「豊かな生活を支える」の3つの視点から、10の歴史的風致を設定している。

奈良市の歴史的風致の分布



【 自然・神仏を敬う 】

奈良市では、四季を彩る風物詩となる伝統的な祭礼や行事が、一年を通じて市内各地で執り行われ、季節の移り変わりを感じることができる。また、それらの伝統的な祭礼や行事を通じて、古くからの人々の自然や神仏に対する畏敬の念を感じることができる。

- (1) 古都奈良を代表する祭礼・行事にみる歴史的風致
- (2) 地域の祭礼・行事にみる歴史的風致
- (3) 民間信仰にみる歴史的風致



春日若宮おん祭



奈良豆比古神社の翁舞



平城宮跡の見学会



奈良公園の鹿



奈良町の地蔵盆



赤膚山元窯大型窯

【 歴史を尊び、風土を愛でる 】

古都を起源とした様々な歴史文化遺産やそれらがつくりだす風土を遊覧の対象として探訪したり、価値のあるものとして保存し、さらに、題材として文学・芸術作品を創作するなどの活動が、古都奈良の歴史を尊び、風土を愛でる思想のもとに展開されている。

- (1) 社寺・名所・旧跡への探訪にみる歴史的風致
- (2) 文学・芸術活動にみる歴史的風致
- (3) 平城宮跡の保護活動にみる歴史的風致
- (4) 奈良公園にみる歴史的風致

【 豊かな生活を支える 】

奈良に暮らす人々は、各時代において、代々守り伝えてきた豊かな歴史や文化、自然を巧みに利用し、工芸や商工業、観光産業などを生業として発展させるとともに、茶の湯などの文化的活動を生活のなかに取り込むことにより、豊かな生活環境を自ら築き上げてきた。そして、現在もそれらの活動が生活のなかに息づき、人々の日々の生活を豊かなものになっている。

- (1) 奈良町のコミュニティと町家の暮らしにみる歴史的風致
- (2) 伝統的な工芸と産業にみる歴史的風致
- (3) 茶の文化にみる歴史的風致

奈良市の重点区域における施策・事業概要

重点区域の名称：奈良町及び奈良公園地区
重点区域の面積：約 769 ha

奈良市の歴史的風致における重点区域

重点区域の範囲は、奈良盆地東麓の中世以降に大社寺の門前町として成立し、人々の生活の場として様々な祭りや行事、産業や工芸を生み出しながら発展してきた近世奈良町の区域、並びにその東側に広がり、奈良町に暮らす人々の自然観や信仰、生活に大きな影響を及ぼしてきた奈良公園の区域を合わせた区域とする。

実施する事業の区分

- (ア) 奈良の歴史のつながりや重なりを感じられる「場」を守り、活かし、伝えていく
- (イ) 伝統・文化を自ら守り、活かし、伝えられる「ひと」を育む
- (ウ) 歴史的風致としての「一体的な価値」を共有し、まちづくりや観光振興に展開する

重点区域の範囲と対象事業

